

貯留患者では胸水を頭側に排除することにより、胸水に覆われた肺の所見を明らかにすることができる。③ 被包性胸膜炎と胸膜肺腫との鑑別が可能な場合もある。以上の所見から、胸水貯留患者はもちろん胸膜癒着または肺腫と考えられる患者でも、逆傾斜X線撮影は一応試みるべき方法であると考ええる。

〔質問〕 久留幸男（結核予防会調査部）

第3例は穿孔性膿胸と診断し右全摘を行なうべきであると思うが、演者の意見はどうか。

〔回答〕 遠山有能

第3例は上野空洞の穿孔による膿気胸と考えているが、外来患者であるので詳しい検査は行なっていない。いずれ入所させ検査をすすめ適切な処置を行ないたいと考えている。

訂 正

Vol. 43 No. 2 に誤りがありましたので訂正します。

- |       |          |             |           |
|-------|----------|-------------|-----------|
| p. 97 | 上から4行目   | 高坂          | →高阪       |
|       | " "      | 藤原哲         | →藤原徹      |
|       | " 10行目   | Seio        | →Masao    |
|       | " "      | Tetsu       | →Tooru    |
| p. 98 | 左段上から1行目 | Macaca irus |           |
|       | "        | (テナガザル)     | →(カニクイザル) |